



あいうえお

四十五首のみじかうた

いはぎ

あ あか 紅 あか 紅 いろづ 彩 付 く こ ころ 歌 に 込 め 描 く は 君 へ の た ゆ ま ぬ 想 い
い
う
え
お

【あいうえお短歌こはぎルール】

- ★歌の一文字目が該当の音から始まるように。
- ★一首の中にふたつずつ該当の音を入れるように。
- ★5首ワンセット（例：あいうえお、かきくけこ…）

【あ】 飽きるほど繰り返してる「明日からは君を忘れて生きていく」とか

【い】 いましがた決めた心はいつの間に解けて君をまた想ってるほど

【う】 嘘だとか上手い言い訳を繰り返し固めた鎧 君に脱がされ

【え】 鉛筆で綿密に書く未来図を遠慮も無しに消してゆく君

【お】 温度差を感じるメール 返事すら出来ぬ幼さに唇を噛む



【か】 髪に触れ頬を滑り唇弾く頑なな私溶かす君の手

【き】 君にまた傷をもらったけれどももう知ってる 嫌いになんかなれない

【く】 空気吸い吐くだけを繰り返しつつ溜息ばかりが癖になる恋

【け】 経験を重ねて今があるけれど過去は消したい君の胸の中

【こ】 恋人と呼ぶ君の手に抱かれた眠りこんなにも心地良いウソ



【さ】 咲く花に思わず足をとめた朝ささくれた胸潤す恋は

【し】 しがらみに縛られた恋をしてるだけ君への想いに変わりなど無い

【す】 水曜のあなたの帰りが早い日は少し切ない 君が足りない

【せ】 背中向け帰る君見送る駅で世界が少し傾く夕暮れ

【そ】 そっと手に触れた君 ただそれだけで伝わる想い「君を抱きたい」



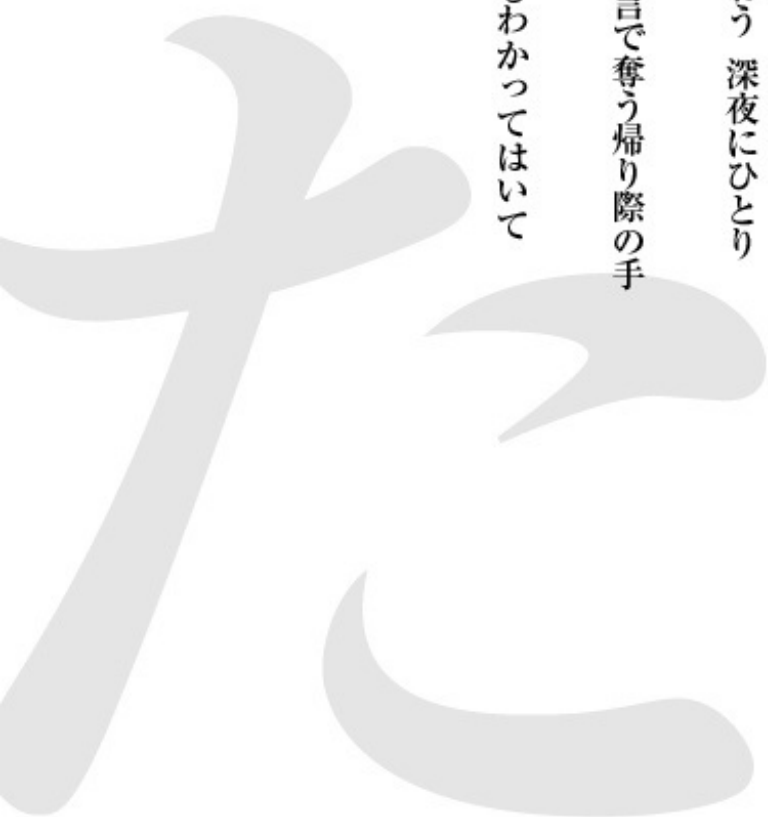
【た】 溜息が積もる胸の中たたずんでいる私 君に「好き」と告げたい

【ち】 近道を探して地図に無い道を守るみたいな君への恋は

【つ】 告げられぬ想いは積もり重なって潰れてしまおう 深夜にひとり

【て】 「手に触れて良い？」それだけが言えなくて無言で奪う帰り際の手

【と】 遠い明日の約束を口にする君は届かないこともわかってはいて



【な】 何をしていても何度でも蘇る君の腕の中ましろ微睡む記憶

【に】 逃げ出したこの現実から離れゆく二度目の恋もまた現実で

【ぬ】 濡れた目で見つめる君に盗まれた恥はにかずかしさとか自制心とか

【ね】 眠るたび君を忘れてしまいたい願ねがい虚しくまだ君が好き

【の】 望むのは君に酔いしれつく眠り 叶わぬ夜にまたひとり飲む



【は】 初めての君とふたりきり はにかんだままの言葉は足りなさ過ぎて

【ひ】 秘密だけ作った今日はときめきと後ろめたさをひとり食む夜

【ふ】 二人きり過ごした僅かな時間にも深まる想い ねえ、振り向いて

【へ】 平静を装いつつも口数が増える 平穏でいられぬ心

【ほ】 本心を隠したふたり 本当はその手に触れたいことも知ってる

は

は

【ま】 毎日に君の記憶はまた巡り待ち続けている次の約束

【み】 見つめてることさえできず目を伏せて君に魅せられた初めての夜

【む】 無理をしてまで会いにくる無茶な君 胸に棲み付いた無垢なるその眼

【め】 目を逸らす君が可愛い 悪戯に視線捉えて遊んでみたり

【も】 もうずっと側に居た気がする君と繋がる心は脆く危うく



【や】 やがて来る最期の日にもやわらかな笑顔でいたい優しい君に

【ゆ】 ゆるやかに傾き揺れるこの心 夕闇に映る別れの予感

【よ】 夜の中弱りて立ち尽くす君を包んで言わせない「さよなら」は



【ら】 乱暴に君が投げつける言葉粒 それで楽になれるなら聞くよ

【り】 理由など知らない 気付いたら君に惹かれ落ちてた 林檎のように

【る】 「涙腺が崩れる前に抱いてよ」とルール無視して壊れそうな君

【れ】 冷凍し凍らせてしまえこの心 連絡を待つ日々辛過ぎて

【ろ】 蠟燭の揺らぎ見つめつ君と杯交わした夜にロマンスひとつ



【わ】 私から「好き」のひとこと聞き出して わかっているの？次は君だよ



あいうえお 四十五首のみじかうた

作・編集・装丁： **こはぎ** @kohagi_tw

発行： 2010年 秋

こはぎうた <http://kohagi-orz.jugem.jp/>